

「発達障害と子育て ～育てにくいと感じたら…～」

特別な支援を必要とする子供の子育てについて、特別支援学校と特別支援学級の取組について伺いました。



県立中種子養護学校

◆学校紹介

本校は、開校44年目になる熊毛地区唯一の特別支援学校です。児童生徒数は、小学部から高等部まで48人です。

「明るく、なかよく、ねばり強く」の校訓の下、「児童生徒の良さや可能性を伸ばす教育」に職員一丸となつて取り組んでいます。また、地域のセクター的機能に係る取組として、各学校への巡回相談や講師派遣、外部向け研修会の実施、ひまわり相談室での来校・電話相談、高校生を対象としたボランティア養成講座等に取り組んでいます。

Q 保護者からの子育て相談にはどのようなものがありますか。

A 「食事で偏食が多い」、「パニックでの失敗が多い」、「言葉がなかなか出ない」、「活動の切り替えが難しい」などがあります。

Q 子育て相談の解消の手立ては

A 学校では、給食で嫌いな物などの程度食べられないのか様子を見ながら、まずは1個、一口ずつ食べるようにします。一口でも



牧場の仕事体験

出なくても5分くらいにします。排泄を失敗したとしても怒るのではなく、「おしっこが出たね。気持ち悪いから着替えてようね」と話しかけ、トイレに行く必要性を伝えていきます。

特別支援学校では、自立活動の時間に、発音・発声の仕方や語彙を増やす学習を行います。学校生活のいろいろな場面でも、例えば、「ちやかなを」「さかなだね」や「さかなが、およいでいるね」など、正しい発音や一語文を二語文に広げて話し掛けるなど、言葉の発達を促しています。

Q 子育てをする上でのアドバイス

A 一人で悩まないで、子供が「できた」ときに「見える笑顔は宝物。子育てで迷ったら早めに相談して、子供に合った支援方法を見つけましょう。」

(校長 牧野 朋子)

鹿児島市立川上小学校

◆学校紹介

本校は、創立137年を迎える伝統校です。校区内には、世界遺産の「関吉の疎水溝」をはじめ、多くの史跡が点在し、穏やかな田園地帯でありながら、高速インター・新興住宅地を有する歴史文化と近未来的要素を併せ持つ環境にあります。

現在615人です。樹齢125年をこえるセシアンがシンボル

ツリーで、「感動の教育」「鍛錬の教育」「創造の教育」を三本柱に掲げ、日々実践に努めています。

Q 保護者からの子育て相談にはどのようなものがありますか。

A 集中力の持続が難しい、同年代の子供とうまくコミュニケーションが図れない、怒りの感情を抑えられない、他の子より行動が遅い、こだわりが強く自分のルーティンを変更されると不機嫌になる、片付け・忘れ物など同じことを繰り返す、頑張っているのに学力が上がる、文字を書くことを嫌がる、漢字の書き順が覚えられず苦手意識を持つている、上手にあいさつができない、どこまで手を貸せばよいかわからない、「子供との接し方（声の掛け方、褒め方）がわからない」などが挙げられます。

Q 子育てをする上でのアドバイス

A 一人で悩まず、保護者同士や職員に声を掛けましょう。その子供に

進めています。例えば、机上の学習準備はどの学年も同じにしたり、1時間の学習の流れをボードに書いて見通しを持たせたりします。また、きれいに整理されたカバン棚や机の中の写真や絵を貼り、整理整頓に役立たせます。字を書きたがらない子供には、大きなサイズのプリントを用意しサポーターします。ICTも、抽象概念を補助したり、漢字の書き順を理解させたりするなど活用しています。心を落ち着かせる空間を設けることも、大事な手立てです。

家庭でも、「ストレス軽減ボールをギュツとして心を落ち着かせる」、「定期的に片付けをさせて褒める」、「家族みんなあいさつや体操をする」などに取り組んでいます。

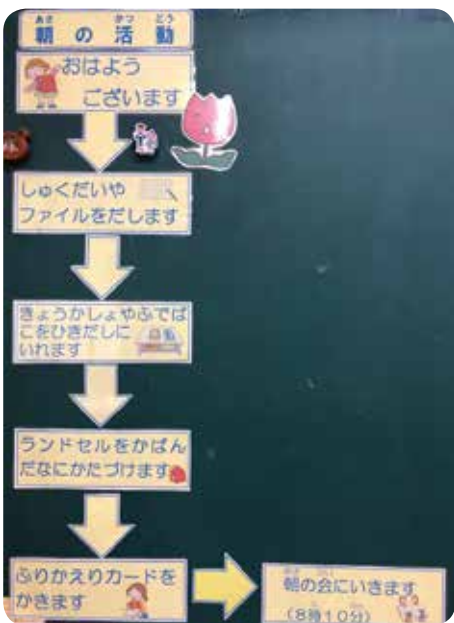
家庭でも、一緒に笑う時間を少しでも確保できるように、親子で何かプ

じた適切な方法を知り、少しでもその子供にとっての高いハードルや困り感を取り除いてあげましょう。何でもよいので、親子で一緒に笑う時間を少しでも確保できるように、親子で何かプ



ストレス軽減ボールで怒りをしずめる児童

（教頭 松山 淳）



学習の流れをとらえさせるボード